

巻 頭 の こ と ば

令和4年度に執行いたしました本市行政事務について、その概要を報告いたします。

新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大によって、市民生活や地域経済は多大な影響を被ってきました。さらに混沌とする国際情勢や金融市場などにより、社会経済情勢が先行きの不透明感を増す中、エネルギーや食料品を中心に物価上昇が続いていることから、厳しさを増す市民生活などへの対策として給付事業を実施するなど、地域への影響を見定めながら市民生活や事業活動を守る施策を講じてまいりました。

社会経済活動の回復に向けて、全日本トライアスロン皆生大会が3年ぶりに開催され、また、米子がいな祭りは会場に一定の制限を設けるなど感染予防に配慮したものとなりましたが、3年ぶりに会場を米子駅前に戻して開催されるなど、参加者や観客にもたくさんの笑顔があふれ、まち全体が活気を取り戻す一助となりました。

米子市まちづくりビジョンに基づく主な取組として、「交通基盤の充実と人が集うまちづくり」を推進するため、「がいなロード」や駅南広場の整備事業などの取組により交通の結節点としての機能を充実させ、中心市街地や皆生温泉などのにぎわいを創出する一方で、「新商都米子」にふさわしいコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進していくため、新たに立地適正化計画を策定しました。

脱炭素社会に向けた取組として、本市のほか3団体の共同提案が、国の「脱炭素先行地域」として選定されたほか、本市下水道の皆生処理場が国の「カーボンニュートラル地域モデル処理場計画」に全国ではじめて登録されました。

また、多様化する福祉ニーズに対応する相談支援の拠点として、総合相談支援センター「えしこに」の開設、米子市立としては初めての認定こども園となる「淀江どんぐりこども園」の開園、学校や家庭以外の居場所・学びの場として、「米子市教育支援センター～ぷらっとホーム～」を開所するなど、学校と福祉部門、関係機関の連携を深めながら、支援を充実させてまいりました。

今後も、本市の将来像である「住んで楽しいまち よなご」の具現化に向け、スピード感を持ちながら、力強く取組を前に進めるとともに、鳥取県西部圏域はもとより、中海・宍道湖・大山圏域の中心的な役割を担う都市として、圏域の一体感の醸成と連携の強化に努めながら、産業や観光などの振興策に取り組み、圏域全体の発展を目指してまいります。

市議会議員各位、並びに市民の皆さまのご意見とご協力をいただきながら、引き続き、市政運営にまい進する所存でございますので、どうか一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年8月

米子市長 伊 木 隆 司